

III-1 SSH 講演会

(1) 研究仮説

研究開発の第一線で活躍する研究者や開発者の方にご講演いただき、研究開発の内容や現場の様子、苦労されていることや、やりがいなどについてお話しいただくことで、生徒は科学技術についての興味関心を高め、進路意識や学習意欲を向上させるであろう。

(2) 実践

ア 実施日時 令和3年12月22日（水）9:45～11:30

イ 実施方法 オンライン

ウ 参加生徒 全日制 全校生徒

エ 講師 東京理科大学 経営学部経営学科

教授 椿 美智子 様

積水ハウス株式会社 コミュニケーションデザイン部 データイノベーション室

課長 遠山 勇人 様

オ 演題 「AI、データサイエンス、DX の現状と未来」

カ 実施形態 講師による講演（90 分間） 生徒との質疑応答（10 分間）



(3) 評価

ア 参加生徒の感想（一部抜粋）

- ・ マーケティングって言葉は知っていたけど別世界って感じていた。しかし「自分が欲しいもの」「幸福感を得るもの」と考えるととても身近に感じる。
- ・ 私たちは買い物をする時に無意識のうちに様々なことを考えていることを知った。もっと考えて買い物をすれば、よりよい買い物にもつながると感じた。
- ・ 文系だからといって自分の進路を狭めてしまうのではなく、データ分析の能力などを身につけることで将来も役に立つと分かった。
- ・ データ分析はあまり自分の将来就きたい職種に関係ないかなと思っていたが、一見、データ分析をしていなさそうな職種でもデータをもとに仕事を効率よくできるように活用していて、自分にも関係があることだと実感した。
- ・ 経営科学については、顧客が本当に欲しいものを AI と人間が協力しながら作り出していくことに感銘を受けた。データ分析については、情報を事細かく成分に分け、時間をかけて検証していくことを知り、自分にとって刺激を受けた。

イ 事後アンケートより（一部抜粋） ※対象者は中1、中2、高1、高2の全生徒

（数値は％）

3-②探究力がこの授業で・・・					
増した	少し増した	変わらない	減った		
10.1	55.4	32.9	1.6		
4-① この講演で「世の中であって欲しいのに無いものは何だろう？」または「私が知りたいことは何かな？」と何回くらい考えたか？					
	0 回	1 回	2 回	3 回	4 回以上
自ら考えた回数	29.0	33.9	23.6	7.4	6.2
促されて考えた回数	27.1	32.2	24.4	9.9	6.4
考えが浮かんだ回数	25.7	34.4	23.8	8.0	8.2
4-② 「あって欲しいのに無いものは何だろう？」または「足りないことは何かな？」を、これまでよりも考えるようになりそうか？					
とても考える	考える	少し考える	変わらない	考えない	
4.3	22.4	53.2	19.3	0.8	

ウ 考察

参加生徒の感想、事後アンケートの結果より、本講演会にて生徒は AI、データサイエンスについての興味関心を高めることができたと考えられる。中でもマーケティングにおける AI と人間の関わりやデータサイエンスの身近な分野での活用については、生徒の意欲を大いに刺激し進路意識や学習意欲の向上もたらしたことが推察される。